

の有効利用を検討するため、関東地方建設局の特別のご厚意で場所を提供していただいた。

当日は曇りながら、各チームのアイデア、デザインなど工夫をこらしたカラフルなカヌーと若い熱気に包まれた明るい雰囲気の中で無事に競技が進められた。

今年の出場艇は昨年より3艇増えた21艇（12大学，1短大，5高校）で，遠く佐賀大学からの参加もあり，レースは予選から勝ち上がった6チームより行われた。佐賀大学チームが昨年優勝の東京理科大学チームを2艇身差で押さえて優勝し，3位には昨年同様山梨大学が入った。以下，足利工大，日本大学（交通土木），東京工大の順であった。また，デザインの優れたカヌーに送られるデザイン賞は参加者による投票により日本大学生産工学部港湾研究室チームが獲得した。

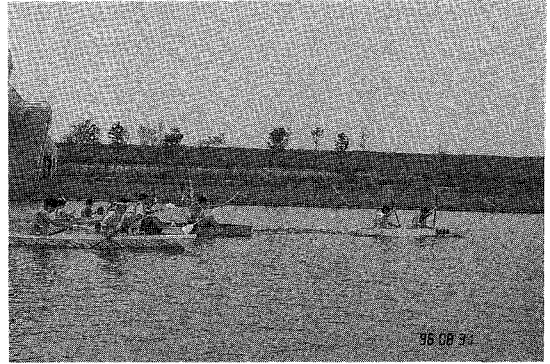
参加者にとって，もちろん上位を狙うのは当然として，カヌーを仲間と工夫をこらし手作りづくり，レースに参加して完漕することは大きな喜びであると思われる。

レースをみた感想では，カヌーの構造と共に船の方向性を高めること（スタート時点で素早く艇のスタート準備ができること，ゴールに向かって真っ直ぐに進められること）と，クルーの息のあったパドルさばきをポイントに計画することが勝利への近道だと思われる。

参加されたチームは以下の通りである。

埼玉大学建設工学科 前橋市立工業短大建設工学科 長岡技術科学大学建設系 法政大学土木工学科 日本大学理学部交通土木工学科 都立大学土木工学科 昭和第一学園高校 日本大学生産工学部（構造研究会） 足利工業大学土木工学科 都立小石川工業高校建設科 日本大学生産工学部（港湾研究室） 茨城大学都市システム工学科 山梨大学土木環境工学科 横須賀市立工業高校 茨城大学大学院理工研究科 佐賀大学土木工学科 東京理科大学土木工学科 群馬大学建設工学科 木更津工業高校土木工学科 宇都宮工業高校建設科 東京工業大学土木工学科

また，遠路はるばる参加し，優勝した佐賀大学に感想を聞いてみた。「勝因をいくつか上げてみると，①カヌー本体を極力軽量化（重量36kg）したこと，②艇幅を限界まで狭くしたこと，③



オリンピックカヌー競技を参考にパドルの形状を決めたこと，④佐賀から家用車で会場まで運ぶことを考えて3分割できる構造にしたため運搬が楽になり，練習量が充分取れたこと，等が上げられる。この大会は単なるカヌーのレースという意味には留まらず，船型の計画，構造設計，製作といった一連の作業の流れは，コンクリート構造物を完成させるまでの工程を体験出来るものであった（佐賀大学：井関孝史）

（パシフィックコンサルタンツ（株）北関東支社 金井 道夫）

## 「若手地震工学研究者の会」 第15回セミナー開催される

「若手地震工学研究者の会」の第15回セミナーが8月3日～5日の3日間，徳島県山川町ふいご温泉ふいご荘において開催された。極めて交通の便利が悪いにも関わらず，土木，建築，地球物理，地質等の幅広い分野から約50名の参加を得て，12名の会員が最近の研究成果を発表し，活発な討議がなされた。また，阪神コンサルタンツ（株）の横田裕氏と京都大学理学部の岡田篤正教授による招待講演，岡田教授の案内による中央構造線と野島断層の見学会という盛りだくさんの内容であった。

発表としては，清水建設の片岡，鹿島の古山田，大阪土質試験所の赤澤，京都大学の高橋，金沢大学の村田，鉄道総研の上半，大林組の大堀，東電設計の中瀬，東京大学の目黒，東京電力の植竹，



中央構造線の上で

清水建設の石川、鹿島の佐々木、の各研究者から話題提供があった。招待講演では、横田氏より、「反射法探査による関西周辺の深部構造」と題して反射法の基礎から最新の結果まで含む興味深い講演がなされ、岡田教授からは最終日の見学会のための予習もかねて、中央構造線や周辺の地質学的考察が示された。

見学会では、岡田教授によりピックアップされた中央構造線の特徴的な地形、地質を見て歩き、中央構造線の真上に建つ施設で昼食をとり、最後に淡路島に渡って野島断層を見学するという、まさに断層三昧の一日であった。素人目には断層かどうか分からないところも多く、岡田教授の現場を見ながらの解説は会員にとって非常に有意義なものとなった。

本会は、地震工学に関わる若手の人たちの親睦を深め、相互の情報交換と議論の場をもつことを目的に1983年に結成された会である。会員は大学・官公庁・民間各方面の地盤工学（土木・建築・地球物理・地質やそれらの学際的な分野）に携わる若手（～39歳）の研究者約80名から構成されている。本会では、毎年夏にセミナーを開催し、学会とは違った雰囲気、形式にとられない自由で活発な議論の場をもっている。本会に参加を希望される方（ただし35歳以下）は事務局までご連絡ください。

運輸省港湾技術研究所

Tel. : 0468-44-5030, Fax. : 0468-44-0839,

E-mail : nozu@ipc.phri.go.jp

(京都大学大学院工学研究科 盛川 仁)

## 「第17回土木学会映画・ビデオコンクール」入賞作品決まる

昭和39年以来、隔年で行われている恒例の「土木学会映画・ビデオコンクール」が、本年第17回を迎え、開催された。平成8年9月5日13時より行われた本審査会において、下記6編の入賞作品が決定した。

なお、入賞作品発表会および表彰式の詳細は、本号69ページを参照して下さい。

### 「第17回土木学会映画・ビデオコンクール」審査結果

#### <最優秀賞>

- ・石を架ける —石橋文化を築いた人びと—  
16 mm / 39分 / 文化工房 / 文化工房

#### <優秀賞>

- ・高速湾岸線 多摩川トンネル  
VHS / 28分 / 鹿島・熊谷・大林・清水他JV / カジマビジョン
- ・ベイエリアの新しいモニュメント 鶴見つばさ橋  
16 mm / 24分 / 首都高速道路公団 / 日本映画新社

#### <準優秀賞>

- ・阪神大震災による道路の被災と復旧  
VHS / 20分 / 建設省近畿地方建設局 / 日本シネセル
- ・関西国際空港 海上空港の建設  
VHS / 25分 / 関西国際空港(株) / 日本シネセル
- ・米島大橋主塔建設  
16 mm / 30分 / 本州四国連絡橋公団 / 海洋架橋調査会

(視聴覚教育委員会)